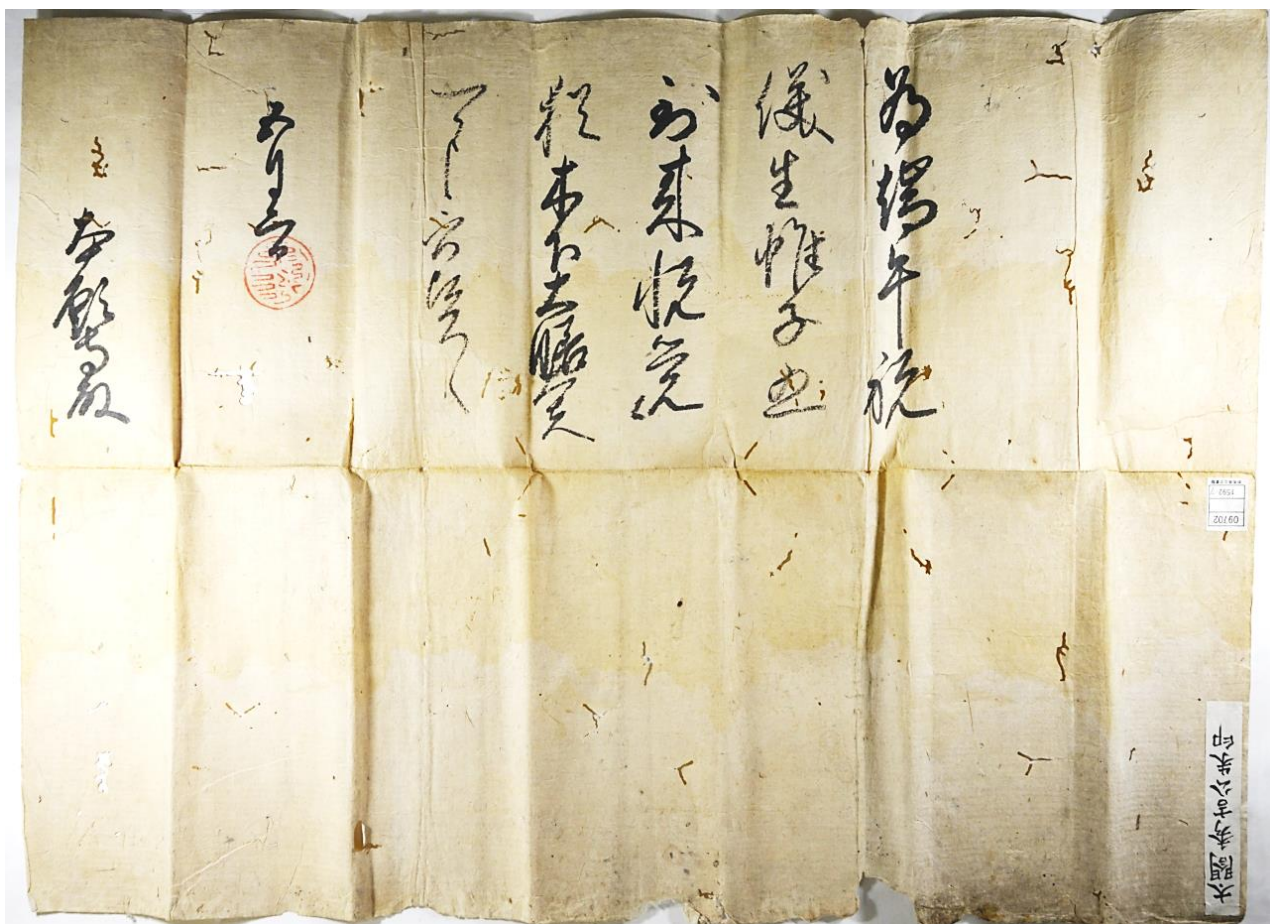


【14】豊臣秀吉朱印状（年未詳）

（前橋市 八木家文書 P〇九七〇二 No.一五九二一七）



山崎小次郎

20160

《釈文》

為ニ端午祝

儀一、生帷子五

到来、悦覚候、

猶木下大膳大夫

可レ申候、穴賢く、

五月二日（朱印）

本願寺殿

《読み下し文》

端午（たんご）の祝儀（しゅづぎ）として、

生帷子（きかたびら）五

到来、悦（えつ）に覚え候、

猶（なお）木下大膳大夫へ

申すべく候、あなかしこ、あなかしこ、

五月二日（朱印）

本願寺殿

《用語》

【端午…たんご】五節供の一つ。陰暦の五月五日の男子の節供。

【祝儀…しゅうぎ】祝いの気持ち。祝意。祝意を表して贈る金銭や品物。引き出物。

【帷子…かたびら】夏に着る、麻、木綿、絹などで作った単物(ひとえもの)。また、一般に、ひとえの着物。生帷子は正絹の帷子のことか。

【悦…えつ】喜ぶこと。うれしがること。機嫌がよいこと。

【木下大膳大夫(きのしただいぜんのだいぶ)】木下吉隆(よしたか)(?～一五九八)のこと。豊臣秀吉に馬廻(うままわり)組頭として重用され、

豊後(ぶんご)国(大分県)に三万五三〇〇石を与えられる。文禄(ぶんろく)四年(一五九五)七月、豊臣秀次(ひでつぐ)事件に連座して失脚、

薩摩(さつま)国(鹿児島県)の島津義弘(よしひろ)にあずけられ、慶長三年流刑地で自殺。名は吉俊、吉種とも。通称半介。

【あなかしこ】「あな」は感動詞。「穴賢」と書くのは当て字。相手に敬意を表す仮名書状の用語。文言の終わりにおかれるが、まれに初めに置かれることもある。男女ともに用いた。

【豊臣秀吉…とよとみひでよし】一五三七～一五九八年。安土桃山時代の武将。尾張国(愛知県)の人。織田信長に重用されて台頭、信長を倒した明智光秀を討ち、徳川家康と和し、天下統一を達成。大閤検地など統一事業を推進した。秀吉は天正十三年(一五八五)七月に関白に任官し、この頃から署名に花押を据えず、朱印を多用するようになる。日明貿易などで生糸を輸入した際に使用された糸印を模して、秀吉は使用したとされるが、詳細は不明である(『豊臣秀吉の古文書』柏書房、二〇一五年)

【本願寺…ほんがんじ】親鸞を開祖とする浄土真宗の本山。親鸞の死後、文永九年(一一七二)京都東山大谷の地に墓をたて御影堂を建立したのがおこりで、鎌倉末期から本願寺と称する。第八世蓮如の時代に飛躍的に信者を増やし文明十年(一四七八)山城山科に本願寺を再建するが、第十世証如の時代の天文元年(一五三二)法華宗徒らによって山科本願寺が焼かれ、大坂の石山坊舎を本寺とした(石山本願寺)。第十一世顕如

は、元龜元年(一五七〇)石山を欲する織田信長と交戦を開始するが(石山本願寺合戦)、天正八年(一五八〇)三月勅命により講和した。その結果、顕如は石山を退去し、紀伊鷺森(和歌山県)に移り、同十一年さらに和泉貝塚(大阪府)へ移った。同十三年豊臣秀吉から大坂天満(大阪府)に寺地を与えられ、ついで同十九年改めて京都七条坊門堀川の地を寄進された。顕如の死去後、長男教如と三男准如が後継を争ったが、文禄二年(一五九三)秀吉は准如の継職を裁定した。一方、慶長七年(一六〇二)二月に至り徳川家康が京都烏丸六条の地を教如に与えたため、本願寺は勢力を二分し東西に分立した。

《解説》

端午の節句に本願寺が帷子を献上してきたことへの豊臣秀吉からの礼状である。木下吉隆が発給に関わっていたことがわかる。文書の発給年代は記されていないが、木下吉隆は文禄二年(一五九三)十月六日までには大膳大夫に任じられ、同四年七月十三日までには豊臣秀吉によって甥豊臣秀次が自書を命じられた事件に関与し流罪が決定しているので、文禄三年か四年の五月に出された文書と推定できる。

この文書が伝来した八木家は江戸時代に前橋藩士だった家で、一七〇〇余点の文書群からなる八木家文書は、平成九年(一九九七)に当館に寄贈された。この中には戦国期から近世初期の文書が二〇点含まれている。八木家の家祖は「隼人」という人物で播磨国(兵庫県)を出自として、隼人以前は讃岐国高松一七万石の大名生駒氏家臣であったという。隼人には美子がなく、横田内膳の九男が養子となり権左衛門と名のり、延宝七年(一六七九)姫路藩主松平直矩に仕官したという。その後、松平家とともに奥州白河などを経て前橋に移った。

本願寺関係の文書が八木家に伝来した背景として、初代の八木隼人(定長)が本願寺第一二代門主准如の時代に本願寺家臣として活動していたためと考えられている(青木裕美「八木家文書とその伝来」『群馬県立歴史博物館紀要』第三九号、二〇一八年)。青木氏によれば、隼人は寛永一四年(一六三五)時点でも本願寺家臣として確認でき、終生本願寺に仕えていた可能性が高いという。